

令和5年度

高浜町教育委員会
自己点検評価報告書

高浜町教育委員会

—— 目 次 ——

I	はじめに	．．．．．	1
II	「点検・評価について（方法）」	．．．．．	2
	①対象期間		
	②点検・評価の構成		
	③点検・評価の方法		
III	自己点検・評価シート	．．．．．	3
IV	自己点検・評価シートに対する外部の知見	．．．．．	7
V	全体総括	．．．．．	9

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、教育委員会の権限に関する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、公表しなければならないこととされています。

教育委員会が地域の教育課題に応じた基本的な教育の方針・計画を策定し、これに即した事業を実施し、その後自ら評価を行い、結果を公表することにより着実に計画の実行を図ることができます。

高浜町教育委員会では、令和5年度教育委員会の事務の管理及び執行状況について内容の評価・点検を行い、教育に関する学識経験を有する方々の意見を付して報告書としてまとめました。

自己点検・評価を行うことで、今まで見えていなかった課題や不足していた部分が浮き彫りとなり、また教育行政に携わる一人ひとりが新たな視点を加えた中で事業に取り組むことにより、時代の変化に対応した教育行政の推進に資するものと考えております。

今回、自己点検・評価の取り組み内容を公表することで、教育行政のより一層の推進を図りたいと考えておりますので、住民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

Ⅱ 点検・評価について（方法）

① 対象期間

令和5年度（令和5年4月～令和6年3月）

② 点検・評価の構成

評価項目について

令和5年度において実施した施策を、教育委員会の基本方針に基づき、

1. 社会の中で信頼と尊敬を得る人間性を育てる学校教育
2. 人権意識を高め、明るい町づくりに貢献する豊かな心を育てる人権教育
3. 新しい時代を生きぬき、創造する知性と教養を育てる生涯学習の推進
4. 青少年の健全育成とスポーツの振興
5. 郷土愛に満ちた文化創造の心を育てる文化振興

以上の5区分に分類し、それぞれに定めた重点方策により点検・評価を行いました。

③ 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、Ⅲ 自己点検・評価シートにより事業実施状況を把握するとともに、課題や方向性について評価を行いました。

各事業に対する取り組み度・実現度の評価方法は、下記の4段階評価としました。

- A・・・十分な成果がみられる
- B・・・おおむね成果がみられる
- C・・・成果もみられるが、今後検討を要し、さらなる取り組みが必要である
- D・・・成果がみられない

高浜町教育委員会の自己点検・評価シート（令和5年度）

=基本方針=

- 社会の中で信頼と尊敬を得る人間性を育てる学校教育
- 人権意識を高め、明るいまちづくりに貢献する豊かなこころを育てる人権教育
- 新しい時代を生きぬき、創造する知性と教養を育てる生涯学習の推進
- 青少年の健全育成とスポーツの振興
- 郷土愛に満ちた文化創造の心を育てる文化振興

A=十分な成果がみられる
 B=おおむね成果がみられる
 C=成果もみられるが、今後検討を要し、さらなる取り組みが必要である
 D=成果がみられない

1. 社会の中で信頼と尊敬を得る人間性を育てる学校教育

NO	重点方策	自己評価	区分	説明
1	確かな学力の定着	A	実績	①小中学校に、町費単独採用講師を配置（7名）した。 ②小学校に、学習支援員を配置（3名）した。 ③タブレット端末や学習用アプリ等を活用した授業を実施した。
			成果	①②町費単独採用講師や学習支援員を配置することにより、きめ細かな指導を実施することができた。 ③様々なICT機器を活用し、児童生徒が適切に学べる体制を整えることができた。
2	豊かな心の育成	A	実績	①小中学校に、教育相談員を配置（5名）した。 ②小中学校に、スクールカウンセラーを配置（3名）した。 ③高浜公民館内（はまなす教室）に、教育相談員を配置（2名）した。 ④小中学校の図書館運営を支援する学校図書館支援員を配置（1名）した。 ⑤キャリア教育の一環として、金融教育を実施した。 ⑥要保護児童の支援にあたり、児童相談所、こども未来課等とのネットワーク強化を図った。
			成果	①②③各小中学校に教育相談員やスクールカウンセラーを配置することにより、児童生徒や保護者からの教育相談体制を整備した。 【相談件数】延べ7, 131件 ④学校図書館支援員が、学校図書館の環境整備、図書資料を活用した授業の補助、学校と町図書館間の相互貸出を行った。 【相互貸出冊数】延べ852冊 ⑤近隣の金融機関の方を外部講師として招聘（2名）し、お金と金融の動きについての学習を行った。 【高浜中学校】 76名（3年） 【内浦中学校】 6名（3年） ⑥関係機関と連絡会議やケース会議などにより、要保護児童の早期発見やきめ細かな対応が可能となった。
3	健やかな身体の育成	A	実績	①地域スポーツ指導者（10名）を配置した。 ②各学校が策定する「食育に関する指導計画」に基づき、栄養教諭や給食センター職員による栄養指導（3回）や食育授業（50回）を実施した。 ③地場産食材を活用した給食や食育授業の実施のために、生産者と綿密に調整を図った。
			成果	①地域スポーツ指導者を中学校に配置することにより、専門的な技術指導ができた。 【出務日数】地域スポーツ指導者 延べ201日 ②栄養指導や食育授業により、児童生徒の「食」に対する理解を深める機会を提供することができた。 ③生産者との連携によって、地域産の食材の安定供給に寄与した。
4	教員の資質能力の向上	A	実績	①教員（1名）を、福井大学の教職大学院（ミドルリーダー養成コース）へ派遣した。 ②小中学校に、情報教育サポーターを派遣した。
			成果	①教職大学院への教員派遣で得たスキルを、他の教職員に伝達する取り組みを行った。 【派遣日数】延べ 38日 ②情報教育サポーターによる機器やソフトのトラブルの対応や、教職員の操作方法の習熟に寄与した。 【派遣日数】延べ120日

N0	重点方策	自己評価	区分	説明
5	幼児教育の充実	A	実績	①保幼小連携研修会を開催（2回）した。 ②各保育所へ外国語指導助手を派遣した。
			成果	①保育所現場と学校現場の情報交換により、相互理解が深まった。 ②幼児期からネイティブな英語に触れる機会を提供できた。
6	外国語活動の充実と国際理解教育	A	実績	①小中学校へ外国語指導助手（3名）を配置した。 ②生徒の保護者に代わって、英語検定料を負担した。
			成果	①外国語指導助手の指導により、児童生徒がネイティブな英語に触れることができた。 ②英語検定料の町費負担により、全ての生徒が受験できる環境を整えることができた。
7	特別支援教育の充実	A	実績	①特別支援学級に在籍する児童生徒（13名）の保護者に対し、特別支援教育就学奨励費を給付した。154,599円 ②小学校の特別支援学級に在籍する児童が中学校へ進学する際の移行支援会議を開催（1回）した。 ③学校調査員を対象に発達検査（田中ビネー検査）講習会（1回）を開催した。
			成果	①奨励費を給付することにより、特別支援教育に要する経費の保護者の負担軽減に繋がった。 ②児童生徒の個々に応じた支援方法について、保護者や関係者との合意形成を図った。 ③発達検査講習会を開催することにより、検査結果に正確を期すことができた。
8	教育環境の改善	B	実績	①青郷小学校グラウンド改修工事の設計業務を実施した。 ②高浜中学校トイレ改修工事を実施した。 ③小学校、中学校、高校への入学時の支度金に対する保護者支援のため、入学・新生活スタート応援給付金を支給した。 【給付件数】248件 【給付金額】8,340,000円 ④中学校や高校への通学費に対する補助を実施し支給した。16,080,946円 【補助率】中学生通学定期代 10割（路線バスを含む） 高校生通学定期代 8割（スクールバスを含む） ひとり親定期代 10割 ⑤児童生徒の教材費無償化補助金を実施した。（6校+区域外就学児童生徒）13,110,900円 ⑥給食費の無償化を実施した。37,851,515円（賄材料費） ⑦町内から遠方の高校への通学のために入寮、下宿している生徒の入寮費に対する保護者支援のため、入寮費助成補助金を支給した。 【補助率】入寮費上限の8割（上限：5,000円） 【補助件数】14件 【補助金額】560,720円
			成果	①青郷小学校グラウンド改修工事に係る計画を策定することができた。 ②高浜中学校トイレ改修工事を実施し、学校施設の改善および生徒が快適に学校生活を送ることができる環境を整えることができた。 ③④⑤⑥⑦教育に係る保護者の経済的負担軽減に伴う家庭環境の安定化が、児童生徒の精神的な安定に繋がった。

2. 人権意識を高め、明るい町づくりに貢献する豊かな心を育てる人権教育

N0	重点方策	自己評価	区分	説明
1	人権教育の推進	A	実績	①児童生徒が人権について学ぶ地区学習会（ヒューマンサークル・ヒューマンサークルジュニア）を開催した（20回） ②高浜町人権教育研究会の研究活動に対し、補助金を交付した。 ③舞鶴市の「舞鶴引揚記念館」を訪問し、第二次世界大戦後の大陸からの引揚者の歴史を学んだ。
			成果	①②学習や研究活動を通じて、人権への理解を深める機会を提供できた。 ③過去の戦争の歴史から人権について学び理解を深める機会を提供できた。

3. 新しい時代を生きぬき、創造する知性と教養を育てる生涯学習の推進

NO	重点方策	自己評価	区分	説明
1	公民館事業の推進	B	実績	①4公民館において、一般教養、高齢者健康促進、子ども(親子)体験活動などの公民館講座(125講座)を実施した。 ②サークル活動を支援するため、社会教育施設サークル活動支援補助金要綱を作成し、補助金の活用が1件あった。 ③今年度は若狭地区公民館連絡協議会の事務局となっていたため、和田公民館において公民館事業の紹介やワークショップを開催し、他町の公民館関係者と情報交換を行った。また、今年度からコミュニティセンターとなった小浜市の今富公民館を視察し、公民館との相違や実施事業等の情報交換を行った。
			成果	①公民館講座に延べ3,751名の参加があった。 ②補助金を活用することで、サークルの立ち上げに関する初期費用が抑えられ、新たにサークルが立ち上がり活動していくことに繋がることのできる。 ③他町の公民館関係者に高浜町の公民館について知っていただくことができただけでなく、他町の公民館事業についても知ることができ、今後の高浜町の公民館事業に活かしていけるような情報を得ることができた。県内でもコミュニティセンター化が少しずつ進んでいる中、近隣の小浜市での導入状況等を知ることができた。
2	図書館図書の充実と施設の利便性向上	A	実績	①貸出用図書を、新たに3,214冊購入した。 ②インターネットでの予約について周知した。 ③定期検診の際に、新生児に絵本をプレゼントする「ブックスタート」事業を実施した。 ④老朽など廃棄対象となった蔵書等を町民に譲渡する「古本市」を開催した。
			成果	①話題の新刊等を幅広く購入することで多様なニーズに応えることができた。 【貸出冊数】61,619冊 ②継続的に読書に親しめる環境を周知することで利便性の向上につながった。 ③幼少期から本に親しみ、心を育てる情操教育に寄与する取り組みができた。 【配布実績】128冊(新生児1人当たり2冊) ④古本を希望者に譲渡することで、収蔵庫の適正管理を図ることができた。 【譲渡実績】1,884冊
3	国際社会に対応するまちづくりの推進	C	実績	①国際交流に対して意識の高い地域団体が実施する外国語講座や日本語教室の主催に対し、補助金の交付や運営支援を行った。 ②小学5年生から中学3年生までを対象とし、国内に置ける英語に限定した宿泊プログラムであるイングリッシュキャンプの補助制度を継続した。(参加者0名/昨年度0名)
			成果	①国際交流活動を支援することで、町民の国際理解や在住外国人の生活支援に寄与することができた。 ②募集時に参考として近隣開催のプログラムをピックアップし、参加者を募ったが今年度も応募が無かった。今後は児童生徒や保護者のニーズを踏まえながら、事業内容の見直しが必要である。
4	放課後児童クラブの充実	B	実績	①町内全学区内4か所(高浜小・和田小・青郷公民館・内浦公民館)で放課後児童クラブを開設し、延べ9,257名の利用実績があった。 ②支援員を対象に、研修会(4回・年度放課後子どもクラブ資質向上研修、軽度支援員対応や子どもへの声かけの仕方について、個人情報保護及び情報セキュリティに係る職員研修、高浜町職員・特定職業従事者合同人権研修)を実施した。 ③町内全4か所(高浜・和田・青郷・内浦)の放課後児童クラブにおいて業務支援ICT(iPadを使用した児童の入退所管理、保護者からの利用申請受付、職員の出務管理等)を導入した。
			成果	①保護者の就労環境を保障する機能として、定着が図れた。 ②支援員の研修機会を確保することにより、保育の質の向上と事故の未然防止が図れた。 ③業務支援ICTの導入により支援員の負担軽減と児童の安全管理が図れた。

4. 青少年の健全育成とスポーツの振興

NO	重点方策	評価	区分	説明
1	青少年の心身の健全育成	A	実績	①スポーツ少年団(団体数 軟式野球3/和田1・高浜1・青郷1、ラグビー1、サッカー1、ミニバスケットボール男子1、同女子1、柔道1、バドミントン1、剣道1、バレーボール1 計11団体、団員数 小学生200/男子128・女子72、中学生2、高校生以上4 団員計206名)において、異常気象による熱中症対策で活動制限を受けながらも、継続した活動を続けることができた。 ②青少年愛護センター補導員等による見廻り、見守り活動(延べ39日)を実施した。
			成果	①熱中症対策による活動制限や規制が多い中、スポーツ少年団活動を継続できたことで、子どもたちの意欲的な活動を支援することができた。 ②定期的な巡回活動により、青少年の夜間徘徊や不良行為につながる行動を未然に防ぐことができた。 また、今年度は新型コロナ感染症の影響により中止となっていた「ふれあい広場」を4年ぶりに開催し、地域交流の場を提供することができた。

NO	重点方策	自己評価	区分	説明
2	競技スポーツ、生涯スポーツの普及	A	実績	①スポーツ協会委託事業として、7種目（女子ソフトボール、軟式野球、壮年ソフトボール、ゴルフ、グラウンドゴルフ、ゲートボール、女子バレーボール）の大会を開催した。 ②幅広い層が参加しやすいニュースポーツ教室（ビーチボール、ポッチャ、モルック）を5回開催した。また、ビーチボール交流大会を開催した。 ③ビーチスポーツ教室（シーカヤック、スタンドアップパドルボード他）や水辺の安全教室を開催し、海を活用した生涯スポーツの普及活動を行った。 ④若狭高浜はまなすマラソン、青葉山トレイルマラソン、ビーチラグビー等の各種大会に対し補助事業を実施した。 ⑤新たにSNSを活用したスポーツ情報の発信を行った。
			成果	①スポーツ協会と連携しながらコロナ前と同様の7種目を開催し、町民の健康増進と地域の交流づくりに寄与することができた。 【スポーツ大会参加者数】延べ555名 ②運動習慣の定着や健康増進意識の向上につなげることができた。 【ニュースポーツ教室参加者数】延べ121名 【ビーチボール交流大会】4チーム ③町内団体との協働によりビーチスポーツ教室を3回、水辺の安全教室を全小学校で開催し、高浜の自然環境を活かした生涯スポーツを推進することができた。 【ビーチスポーツ教室参加者数】延べ113名 【水辺の安全教室参加者数】延べ77名 ④町内外から多くの参加があり、競技スポーツの推進と高浜町の魅力発信を行うことができた。 【若狭高浜はまなすマラソン参加者数】593名 【青葉山トレイルマラソン参加者数】86名 【ビーチラグビー中部大会参加者数】75チーム他 ⑤SNSを活用し、特に若い世代や町外者にタイムリーなスポーツ情報を届けることができた。
3	体育施設の整備	B	実績	①西地区体育館バドミントン床金具設置工事を実施した。 ②社会教育施設 高圧受電設備改修工事や中央体育館法面保護工事等の維持修繕を実施した。
			成果	①西地区体育館使用時の安全性と利便性を向上することができた。 ②各施設の点検結果に基づき、適切に修繕工事を行うことにより、安全性を向上することができた。

5. 郷土愛に満ちた文化創造の心を育てる文化振興

NO	重点方策	自己評価	区分	説明
1	郷土愛を育む教育	A	実績	①特色ある学校づくり活動（ふるさと学習）の一環として、県の環境保全団体（水土里ネットふくい）の方と、地域を流れる川（片間川）の生き物観察を実施した。 ②特色ある学校づくり活動（ふるさと学習）の一環として、二子山3号墳、吉坂堡壘を見学した。 ③特色ある学校づくり活動（ふるさと学習）の一環として、学校農園でナスやトウモロコシ等の作物を育てたり、水田での稲作を体験したりすることによって、食や農業の大切さについて理解した。 ④郷土資料館特別展（テーマ「伊藤若冲と若狭の禅僧」）を開催（1回）、企画展（テーマ「若狭高浜と禅宗の広がり」「描かれた若狭高浜」）を開催（2回）、ミニ企画展（テーマ「妙長寺文書の世界」「逸見昌経」「釈宗演が遺したもの」）を開催（3回）した。 ⑤郷土資料館歴史講座（テーマ「沢村大学助吉重と若狭高浜」「若狭高浜の禅宗寺院と書画」「妙長寺文書の魅力と法華宗の歴史」「若狭高浜の成り立ちと絵図」）を開催（4回）した。
			成果	①②③小学生児童が地域を再認識する機会を提供することができた。 ④文化財を常設展示や企画展を開催することで、町民が貴重な文化財に直接触れる機会を提供することができた。 【特別展入館者数】918名 【企画展入館者数】289名 【ミニ企画展入館者数】181名 但し、施設・設備とも老朽化が著しく、この様な機会を今後も継続させていくことが困難な状況になっている。 ⑤4回の歴史講座を実施し、歴史に興味を持ってもらう機会を設けると同時に郷土資料館活動の活性化を促すことができた。 【歴史講座入館者数】94名
2	町民の文化意識の高揚	A	実績	①文化会館施設の利用件数・利用者数は、607件、19,966人であった。 ②文化会館事業として、コロナ感染対策を講じながら、5件の町独自事業を実施した。 ③その他、町民の文化芸術意識を高め、情操を深めることを目的とした文芸協会への委託事業（音楽鑑賞事業1回、展示事業1回、芸術鑑賞事業1回）、文化協会への補助事業（文化祭2回）を実施した。
			成果	①町民の文化意識、情操を深める一助とすることができた。 ②公民館と連携し、事業（eスポーツ大会）を開催することで、より多方向から文化の浸透を図ることができ、参加者数も昨年より増加したが、その一方で人口減少も進み、また施設の老朽化等も進行する中で、今後の施設のあり方等を含め検討していく必要がある。 ③コロナ対策をしながら、広く、町民の文化意識を高める事業が実施出来た。
3	文化財の保存・継承・活用	B	実績	①指定文化財管理者へ補助金（中山寺本堂防災設備保守点検業務補助金ほか3件）を交付した。 ②高浜城跡説明看板等移設工事を実施した。 ③「高浜町史資料編 埋蔵文化財」の編さん作業を実施した。
			成果	①町内団体による文化財の保護継承活動を支援することができた。 【補助金交付件数・金額】 4件 804,000円 ②中世の高浜を代表する逸見氏の歴史を伝えることができた。 ③令和5年度に刊行することができなかった。（令和6年度に刊行予定）

IV 自己点検・評価シートに対する外部の知見（要約）

1. 社会の中で信頼と尊敬を得る人間性を育てる学校教育

ア. 自己点検評価が適切と思われるかどうか？（適3名、否0名）

イ. 自由コメント

- ① 置き去りになる子どもがいないよう、きめ細やかな対応をされていると思います。福井県の学力が高い理由がよく分かりました。
- ② 経済や金融について学ぶことも良かったと思います。
- ③ 国際化社会においては、幼児期から英語に触れられることも大切だと思います。
- ④ 抽象的な表現が多いように感じるので、具体的な数値や、子どもや保護者の意見を盛り込むと分かりやすくなると思います。

2. 人権意識を高め、明るい町づくりに貢献する豊かな心を育てる人権教育

ア. 自己点検評価が適切と思われるかどうか？（適3名、否0名）

イ. 自由コメント

- ① 今現在も世界で戦争が行われ人権を奪われている人たちが大勢いることを知らせることは大切だと思います。
- ② 教職員が同和教育への意識が高くなるような取り組みを期待します。

3. 新しい時代を生きぬき、創造する知性と教養を育てる生涯学習の推進

ア. 自己点検評価が適切と思われるかどうか？（適3名、否0名）

イ. 自由コメント

- ① どの公民館も色々と趣向を凝らされ、公民館講座なども充実していると思います。
- ② コミュニティーセンター化も時代の流れからやむを得ないことかもしれませんが、目的が少し変わってしまうようにも感じます。

- ③イングリッシュキャンプになぜ参加者がいないのか不思議です。
- ④放課後児童クラブは、共働き家庭の心強い味方だと思うので、更なる充実を期待します。
- ⑤「3国際社会に対応するまちづくりの推進」（自己評価C）がレベルアップする具体的な取り組みを期待します。
- ⑥図書館の貸出用図書の選定に偏りがあるように感じるので、貸出用図書を町民がリクエストできるような仕組みがあると良いと思います。

4. 青少年の健全育成とスポーツの振興

ア. 自己点検評価が適切と思われるかどうか？ （適3名、否0名）

イ. 自由コメント

- ①コロナが収まり以前のように町民運動会やスポーツ大会が開催されるようになり、安心しています。
- ②部活動の地域移行について、教員の負担によることなく継続していけるよう期待します。
- ③生涯スポーツの観点から、全町民が年に1回は運動を行うような取り組みができると良いと思います。
- ④誰もが通えるフィットネスクラブのようなものができると良いと思います。
- ⑤スポーツ協会の委託事業への参加者（参加チーム）が年々減っているように感じるので、参加者を増やす取り組みも必要だと思います。

5. 郷土愛に満ちた文化創造の心を育てる文化振興

ア. 自己点検評価が適切と思われるかどうか？ （適3名、否0名）

イ. 自由コメント

- ①地域の歴史を学ぶことの楽しさや大切さを再認識しました。
- ②子供たちが、学校で実践するふるさと学習などを通じて、碎導山城、釈宗演、吉坂堡壘などの地域の歴史や資源を学ぶことが、ふるさとに誇り感じることにつながることに期待します。

V 全体総括

高浜町教育委員会で実施する事業を、高浜町教育方針に基づき5つの項目に分類し、自己点検・評価を行った結果、次のとおりとなりました。

またその評価結果について外部の知見者の方に意見を伺いましたところ、どの項目に対しても概ね適当とのご意見をいただきました。今回の評価で得られた外部の知見と共に、この点検・評価結果を活かし、教育の諸課題解決に向け、常に問題意識を持ちながら新規事業・継続事業とも、その内容の強化と充実に努めていきます。

1. 社会の中で信頼と尊敬を得る人間性を育てる学校教育 A 7項目 B 1項目

全8項目中、「8 教育環境の改善」について、学校施設の経年とともにトラブルが増加傾向にあり、抜本的な対策を要する施設があります。

尚、知見者の意見としましては、講師、学習支援員、相談員、スクールカウンセラー、情報教育サポーターなど、各々の役割に応じた職員を各学校に配置し、きめ細かな指導を行っていることや、外部講師を招いての金融教育を実践している点について評価をいただきました。

一方で、社会のグローバル化が進む中、子ども達が幼少期から英語に触れる機会に恵まれることの重要性を指摘する意見をいただきました。

2. 人権意識を高め、明るい町づくりに貢献する豊かな心を育てる人権教育 A 1項目

「1 人権教育の推進」について、学習会や人権教育研究会活動によって、当初の目的を達成しました。

尚、知見者の意見としましては、中東地域やウクライナでの戦争が続く中、過去の歴史を通して人権を学ぶことの大切さを指摘する意見をいただきました。

また、子どもたちだけでなく、教職員の同和教育に対する更なる資質向上を求める意見もありました。

3. 新しい時代を生きぬき、創造する知性と教養を育てる生涯学習の推進

A 1項目 B 2項目 C 1項目

全4項目中、「3 国際社会に対するまちづくりの推進」については、児童生徒を含めた若年層が、グローバル社会で活躍できる人材としての資質を備えることができるよう、方策を検討する必要があります。

尚、知見者の意見としましては、各公民館において、幅広いテーマで多くの講座を開設している点について、評価をいただく一方で、地域から求められる公民館の在り方について、社会教育の視点からの議論の必要性を指摘する意見をいただきました。

この他、放課後児童クラブについては、社会的ニーズの高まりを背景に、更なるサービスの充実を期待する意見をいただきました。

一方で、国際理解や語学力向上を目指して民間が企画する国内でのイングリッシュキャンプについて、参加希望が無いことに疑問を呈する意見をいただいております、改善に向けた検討の必要性を認識したところです。

また、図書館においては、貸出図書のニーズのアンマッチに陥らない工夫を求める意見もいただきます。

4. 青少年の健全育成とスポーツの振興 A 2項目 B 1項目

全3項目中、「3 体育施設の整備」について、中央体育館や青葉ドームを除いた施設は、いずれも老朽化が進行していることから、社会体育に対するニーズを踏まえた施設の在り方を検討していく必要があります。

尚、知見者の意見としましては、中学校における部活動の重要性を指摘すると同時に、教員の負担軽減の観点からその受け皿を学校から地域に円滑に移行する方策について、検討を求める意見をいただきました。

この他、地域のスポーツ大会の参加者の減少を危惧するとともに、スポーツや健康づくりに取り組める環境整備の一環として、フィットネスクラブの設置を求める意見をいただきました。

5. 郷土愛に満ちた文化創造の心を育てる文化振興 A 2項目 B 1項目

全3項目中、「3 文化財の保存・継承・活用」について、「町史 埋蔵文化財」の執筆作業が遅延していることから、刊行スケジュールを見直す必要があります。

尚、知見者の意見として、子どもたちが地域を学ぶことを通じて、課題を見だし、その解決に向けて主体的に行動することで、郷土愛を育むことを期待する意見をいただきました。

このような地域の歴史や文化に触れることの楽しさや大切さを、町民にも認識いただきたく、継続して事業展開してまいります。

高浜町教育委員会

〒919-2292

福井県大飯郡高浜町宮崎第86号23番地2

TEL 0770-72-7724

FAX 0770-72-2889

e-mail gakkou-edu@town.takahama.lg.jp